

はじめに：この本を手にとった先生方へ

この本は「話したいのになかなか話せない」学習者や、「ちゃんと教えてるのに、教科書を離れるとどうして日本語で話せないのかしら」と嘆く先生方のお役に立ちたいと思って作ったものです。

外国語を学ぶことの最大の醍醐味は、新しく習った言葉で自分自身を表現し、それを通して他者と共感し合うことではないでしょうか。それは、学習のごく初期の段階から学習者が求めることですし、それなしに学習を継続するのは苦痛でしょう。そのためには、おそらく学習1時間目から、そこで習った言葉や表現を、学習者が自分自身の中に取り込むこと、つまり、「日本語を内在化する」ことが必要になります。「いま、ここで」起きていることと習った日本語を結びつける、自分自身の本物のエピソードや感情と習った日本語を結びつける、そして少しずつ日本語で表現する練習をする、そうやって日本語を「自分のものにしていく」積み重ねが不可欠です。

この本では、そうした練習が無理なく楽しくできるように18回のレッスンを用意しました。それぞれのレッスンでは、1)既習の学習項目を組み合わせた、そのレベルの学習者が理解可能な、かつ、感情に働きかけて記憶を活性化させるストーリーを教師が読み聞かせる、2)学習者はそれを再生することと、読んだり書いたりすることで「話すパターン」を自分の中に取り込む、3)それを使って学習者自身の生き生きとしたストーリーを話し、クラスメイトや教師とのQ&Aを通して言葉を使う楽しみを見出す、考えを深める、4)同時に、既習項目の復習や統合的な運用力を身につけることを意図した活動を展開しています。やり慣れない方法なので少し難しく感じられるかもしれませんが、一度お試しください。学習者はきっと気に入ってくれると思います。

この本は、大学、日本語学校、ボランティア教室等のクラス活動でも、個人学習でも使えるように工夫しました。また、国外の学習者でなかなか話す力を伸ばすことができないと感じている方にも使っていただけると思います。話す力を伸ばすための副教材として、主教材と並行してお使いいただくと効果的です。日本語を学ぶ多くの方が、この本を使って日本語で自分自身を表現する楽しみを見つけてくれたら嬉しく思います。

一つ一つのストーリーや練習は、多くの学生たちとのやりとりを通じて磨かれたものです。同僚の先生方からも多くの示唆をいただきました。御礼申し上げます。また、四半世紀ほど前、江東区中国帰国者日本語学級会で素晴らしい教育をなさっていた北上康子先生からは教えること/学ぶことの基本を教えてくださいました。その精神はこの本に受け継がれています。遅まきながら御礼を申し上げます。そこに私を送り込んで、日本語教師への扉を開いてくださった早稲田大学の川口義一先生にも改めて感謝申し上げます。最後になりましたが、くろしお出版の市川麻里子さんと荻原典子さんには出版に当たってご尽力いただき、おかげで本書が出版の運びとなりました。深く感謝いたします。

2011年3月 著者代表 杉浦千里

著作権保護コンテンツ

CONTENTS

目次

はじめに iii

To those who use this book vi 致使用本书的学习者 xi

이 책을 공부하는 분들께 xvi この本で勉強する方へ xxi

この本の使い方 — 先生方へ xxvi

LESSON 1

きのう、ドーナツショップへいきました 1

I went to a doughnut shop yesterday / 昨天, 我去了甜甜圈店。 / 어제 도넛 가게에 갔습니다

じょうずにコミュニケーション! ① 質問しましょう 1

じょうずにコミュニケーション! ② 先生に質問しましょう 5

LESSON 2

あしたはいきません 7

I will not go tomorrow / 明天, 我不去。 / 내일은 안 갑니다

じょうずにコミュニケーション! ③ 聞き返しましょう 11

LESSON 3

わたしはまいにち… 13

Every Day I … / 我每天… / 저는 매일…

じょうずにコミュニケーション! ④ Q. A.&Response! 17

LESSON 4

たのしかったです 19

That was fun / 我很开心。 / 즐거웠습니다

じょうずにコミュニケーション! ⑤ 話す人の仕事・聞く人の仕事 23

LESSON 5

にほんにいません 25

Not in Japan / 不在日本。 / 일본에 없습니다

LESSON 6

さいふのなか 31

Inside the Wallet / 钱包中 / 지갑 안

じょうずにコミュニケーション! ⑥ どんな意味ですか 34

LESSON 7

びっくりしました 37

I was surprised / 我吃了一惊。 / 놀랐습니다

LESSON 8

「すめばみやこ」ですか 43

Can you get used to living anywhere? / “久居则安”是嗎? / “정들면 고향” 입니까?

LESSON 9**ゴールデンウィーク**

Golden Week / 黄金周 / 골든위크

49

じょうずにコミュニケーション! ⑦ 英語でkingです

52

じょうずにコミュニケーション! ⑧ うどんみたいです

52

LESSON 10**貸します、借ります、かえしません**

Lending, Borrowing, and Never Returning / 借給、借、不还。/ 빌려줍니다. 빌립니다. 돌려주지 않습니다

55

LESSON 11**好きです**

I like it / 我喜欢。/ 좋아합니다

61

LESSON 12**うれしいプレゼント、悲しいプレゼント**

A gift which makes me happy, A gift which makes me sad / 让我开心的礼物、让我伤心的礼物。/ 기쁜 선물, 슬픈 선물

67

LESSON 13**何か言いたい**

I want to say something / 我想说点什么。/ 무슨 말인가 하고 싶다

73

LESSON 14**ハッピーですか**

Are you happy? / 你幸福吗? / 행복합니까?

79

LESSON 15**日本にいると思います**

I think I will be in Japan / 我想我在日本。/ 일본에 있을 겁니다

85

LESSON 16**初めて刺身を食べました**

My First Sashimi / 我第一次吃了生鱼片。/ 처음으로 회를 먹었습니다

91

LESSON 17**私のお薦め**

My Recommendation / 我的推荐 / 저의 추천

97

LESSON 18**もったいない**

What a waste! / 很可惜! / 아깝다

103

◆学習項目対応表 109

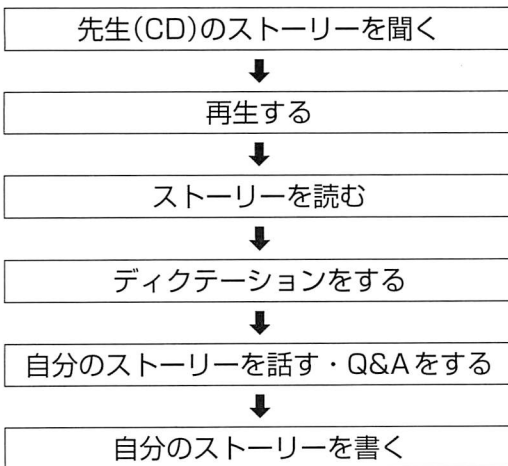
◆著者紹介 112

この本で勉強する方へ

この本は、習った日本語を使って、自分のことや自分の気持ち、意見を話す練習をする本です。言葉や文法はたくさん知っているけれど、自分の話したいことが話せない、とか、一所懸命に話しても相手が理解してくれないと思っている人は、是非、この本で勉強してみてください。

では、どうやったら日本語で上手に話せるのでしょうか。まず、日本語を聞いてわかることが大切です。それから、自分の知っている日本語を上手に組み合わせて話す練習が必要です。もう一つ、相手がわかってくれたかどうか確かめること、つまり、良いコミュニケーションをとることも重要です。この3つを考えながら、話す練習を進めましょう。

練習の仕方は簡単です。まず、先生(CD)のストーリーを聞いてください。聞いてわかったら、*再生してみます。再生ができたならストーリーを読んで、自分が話したことと同じかどうか確認します。ディクテーションをしてもう一度確認します。それから、ここで学んだことを使って自分のストーリーを話したり、Q&Aをしたりして楽しんで、最後に自分が話したストーリーを書きます。



* 再生…先生(CD)のストーリーをもう一度話します。順番や助詞などが少し変わってもかまいませんが、ストーリーの意味が変わらないように話します。

全部で18のレッスンがあります。それが終わる頃には、今よりずっと話せるようになっているでしょう。

この本は副教材です。主教材と一緒に使うと効果的です。

レベル

①の人でも、②の人でも使えます。

①日本語入門者：日本語を勉強し始めた人。簡単な動詞(「行きます」「読みます」など)を習ったら使えます。

②日本語初級者：150時間くらい勉強した人。日本語の文法や言葉はある程度知っているけれど、それを使って上手に話せない人。話す練習とこれまでの総復習として使えます。

著作権保護コンテンツ

この本の構成

この本は次のような構成になっています。I～VIIの順番に行ってください。

- I ストーリーを聞く前に
- II ストーリーを聞いて再生しましょう
- III ストーリーを読みましょう
- IV ストーリーを聞いて書きましょう(ディクテーション)
- V 話しましょう
- VI あなたのストーリーを話しましょう。Q&Aもしましょう
- VII あなたが話したストーリーを書きましょう
- ことば
- じょうずにコミュニケーション

この本の使い方

この本はひとりで勉強するときにも使えますし、クラスで先生と一緒に使うこともできます。それぞれの使い方を説明します。

▶ひとりで勉強する方へ◀

I ストーリーを聞く前に

設問をよく読み、答えを考えて、日本語で言ってみましょう。それをしながら、「日本語で話そう、考えよう」という「日本語モード」になってください。ここでわからない言葉があったら辞書で調べてください。

II ストーリーを聞いて再生しましょう

CDを聞く前に、イラストとことばを見て、どんなストーリーなのか、想像してください。ここでわからない言葉があったら、[ことば]で調べてください。

ストーリー①を聞きます。このとき、次のページのスクリプトを見ないでください。どんな内容なのか、全体の意味に気をつけて聞きます。1回聞いたら止めて、再生(聞いたことをもう一度話す)してみます。1回目は助詞などの細かいところが再生できなくてもかまいませんが、意味が違っては困ります。再生が終わったらもう一度ストーリー①を聞いて、意味が合っているか、細部の違いがないか、確認してください。まだスクリプトは見ないでください。

続けて、ストーリー②を聞いて再生します。ストーリー①と同じようにして、最後のストーリーまで1つずつ聞いて再生します。

1つのストーリーを3回くらい聞いて再生ができることを目指しましょう。再生するのが難しいと感じたら、頭の中で、テレビを見るようにストーリーを映像化して「見る」とうまく意味が取れます。

著作権保護コンテンツ

III ストーリーを読みましょう

その課のストーリーの再生が全部終わったらここを読んで確認します。1～5課では、まずCDを聞きながら黙って文字を目で追って、意味を確認してください。全てのストーリーが終わったらCDを止めて、今度はひとりで声に出して何回も読んでください。最後にCDをかけて、同じ速さで読んでみましょう。

6課以降慣れてきたら、黙って読むだけでもいいです。自分の読みたい読み方をしてください。

IV ストーリーを聞いて書きましょう

ディクテーションをします。CDを聞きながら、_____のことばを書きます。最初はストーリーの途中で止めながら書いてください。書けるまで何回聞いてもかまいません。6課以降慣れてきたら、止める回数や聞く回数を徐々に減らしましょう。答えはⅢのSCRIPTで確認できます。

V 話しましょう

ここにある設問を読んで答えを考え、声に出して話してください。ひとりで話すのはちょっと変な感じがするかもしれませんが、大切な練習です。録音して聞いてみるのもいいでしょう。

VI あなたのストーリーを話しましょう。Q&Aもしましょう

あなた自身の気持ちや経験を思い出して、声に出して話してみましょう。話す前に少し考えて準備をしてもいいですが、書かないでください。話したいことや話す順番を頭の中にメモして話してください。Ⅱで聞いたストーリーのパターンを思い出して、それを使って話してみましょう。

VII あなたが話したストーリーを書きましょう

5分ぐらいで書き終わることを目安にして、Ⅵで話したことをそのまま書いてください。このとき大切なのは、辞書を使わないで、今、自分が話せる言葉だけで書くことです。新しいことばや表現を調べて書くと、意味のわからない日本語になってしまうことが多いからです。

次に、書いたもののチェックが必要ですね。ここがひとりで勉強する人の一番の問題ですが、あなたの周りに日本語がわかる人がいたら、チェックを頼んでみてください。チェックをしてもらうときに、日本語で話すチャンスが作れるかもしれません。周りに全く日本語のわかる人がいない場合は、インターネットなどを使って、協力者を探すことも考えてみましょう。

チェックしてもらったら、何度も読んでみましょう。あなたの話したかったことがそこにあります。

ことば

ストーリーに使われていることばのリストです。まず、これを見ないでストーリーを聞いてください。わからないことばがあったら、ここを見てください。



じょうずにコミュニケーション!

初級のときは言葉や文法の知識が足りないので、言いたいことが十分に言えません。それを少しでも補うためのヒントやテクニックを用意しました。よく読んで、どんな風に話せばよいか、考えてみましょう。Aさん、Bさんの二役の場면을想像して、声を出して練習してみてください。実際に日本語を使うときを想定して、練習を重ねてください。

▶ クラスで勉強する方へ ◀

クラスで効果的に話す練習をするためには、先生やクラスメイトと良好な関係を築くことがとても大切です。そのためには、みんなの名前を覚えたり、挨拶をしたり、相手をよく見て、ちょっと微笑むことなどを心がけてください。

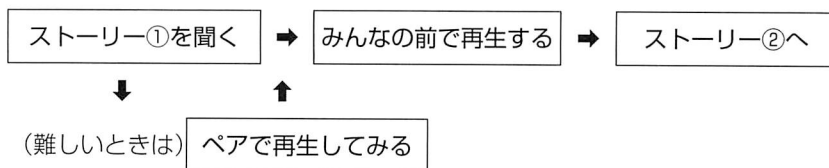
I ストーリーを聞く前に

先生やペアの人とQ&Aをしながら、日本語を話す準備をします。「さあ、日本語を話そう」と意識して、「日本語モード」になってください。

II ストーリーを聞いて再生しましょう

先生がストーリー①を話しますから、どんな話なのか、意味を考えながらよく聞いてください。このとき、次のページのスクリプトは見ないでください。ストーリーが終わったら、みんなの前で再生します。できればひとりで再生してください。難しいときは、ペアで交互に再生してから、みんなの前で再生してみましょう。それでも難しいときは、あと1~2回、ストーリーを聞いてください。

ストーリー①の再生が終わったらストーリー②を聞きます。同じように再生して、最後のストーリーまで続けます。



一つ一つの言葉を覚えようとして聞くと、聞き取るのも再生するのも難しくなります。そんなときは、「意味」に集中して聞くようにしてみましょう。テレビを見るように、頭の中でストーリーを映像化して「見る」とうまく意味が取れます。IIのイラストやことばもヒントになるので使ってください。また、他の人の再生を注意深く聞いて、自分の聞き取ったことと比べながら聞くのも効果的です。

III ストーリーを読みましょう

その課のストーリーの再生が全部終わったらここを読んで確認しましょう。まず、先生が全てのストーリーを読みますから、黙って聞き、自分が再生したストーリーと意味が同じかどうか確かめます。それから、先生と一緒に声を出して読みましょう。

6課以降、もう先生と一緒に声を出して読まなくても大丈夫だと感じたら、ひとりで黙って読んで、ストーリーの意味を確認してください。

IV ストーリーを聞いて書きましょう

もう一度先生が話すストーリーを聞きながら、_____の言葉を書きます。書く練習にもなりまし、ストーリーをもう一度確認することもできます。授業中に時間がないときは、うちでCDを聞きながら書いてみましょう。

V 話しましょう

ここまでストーリーを聞いたり読んだり書いたりして、準備は整いました。今度はあなた自身の経験や気持ちを思い出して、ペアの人や先生と話しましょう。このとき、IIで聞いたストーリーのパターンも思い出して使ってみてください。

VI あなたのストーリーを話しましょう。Q&A もしましょう

Vで話した「あなたのストーリー」をみんなの前で話してみましょう。ちょっと勇気がいりますが、一度やってみると好きになると思います。話すときは、聞いている人がわかるかどうか気にしながら話してください。そのためには聞いている人を見ながら話すことが大切です。

聞いている人は、どんなストーリーなのか、意味を考えながら聞いてください。わからないことばがあったら「わからない」とジェスチャーで示してください。ストーリーが終わったらQ&Aをするので、質問を考えながら聞いてください。Q&Aをするのは難しいですが、とてもいい練習になります。質問するのも勇気がいりますが、きっと好きになると思います。

ここでは「自分のストーリーを聞き手にわかってもらう」「たくさん質問をもらって、それに答える」ことが目標です。「じょうずにコミュニケーション」にはそのためのヒントがたくさんありますから、色々な場面で使ってみてください。

VII あなたが話したストーリーを書きましょう

VIであなたが話したことを、辞書を使わないでそのまま書いて、その後、先生にチェックしてもらいます。それを何度も読んでみましょう。あなたの話したかったことがそこにあります。

ことば

ストーリーに使われていることばのリストです。まず、これを見ないでストーリーを聞いてください。わからないことばがあったら、ここを見てください。



じょうずにコミュニケーション!

初級のときは言葉や文法の知識が足りないなので、言いたいことが十分に言えません。それを少しでも補うためのヒントやテクニックをたくさん用意しました。その課だけでなく、いろいろな場面でどんどん使って、良いコミュニケーションをしてください。

この本の使い方 —先生方へ

この本の特長

この本は初級学習者の話す力を伸ばすことを主目的としていますが、各課に聞く、読む、書く練習があり、四技能を統合的に伸ばすこともできます。主教材と併用すると効果的です。各課の学習項目の確認は、巻末の「学習項目対応表」(p.109)をご参照ください。

学習者のレベル

基本的な動詞(行く、食べる、する等)を学習したレベルの初級学習者から使用できます。もう少し学習が進んだ初級中盤レベルで、既習の学習項目を統合的に活性化させるのにも非常に効果的です。

全体の構成

18課構成です。1課からゆるやかな難易度順に並んでいますが、学習者のレベルに合わせて課を選ぶことができます。巻末に「学習項目対応表」、別冊に「スクリプト(英・中・韓訳付き)」があります。

●各課の構成と留意点.....

次の7つのステップと[ことば] [じょうずにコミュニケーション]で構成されています。

- I ストーリーを聞く前に
- II ストーリーを聞いて再生しましょう
- III ストーリーを読みましょう
- IV ストーリーを聞いて書きましょう(ディクテーション)
- V 話しましょう
- VI あなたのストーリーを話しましょう。Q&Aもしましょう
- VII あなたが話したストーリーを書きましょう
- ことば
- じょうずにコミュニケーション(1、2、3、4、6、9課)

I ストーリーを聞く前に

これから聞くストーリーに関連した活動をすることで、ストーリーの内容を予測させます。また、日本語を聞いたり話したりする「構え」を学習者に準備させます。

5課以降にある「意味を“guess”してください」では、教師が短文を読み聞かせたり、学習者に黙読させたりして、新出語の意味を考えさせます。そのあと、全体で意味の確認をしてください。

著作権保護コンテンツ

II ストーリーを聞いて再生しましょう

まず、その課のストーリーの数を確かめ、次に、ストーリー①のイラストとことばの意味を確認します。イラストについて話すことでストーリーの予測をするのもいい方法です。

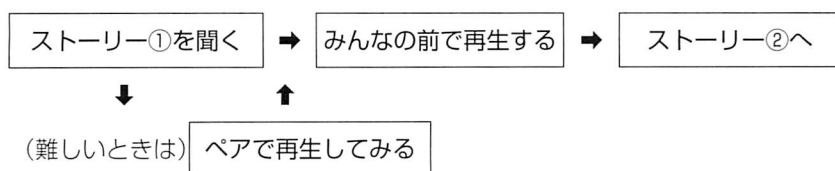
ここまで準備が整ったら、教師がまずストーリー①を読み聞かせます。始まりと終わりに何か合図(筆者は指をパチンと鳴らします)があるとわかりやすいようです。このとき、学習者には、意味に気をつけて聞くように伝えます。一文一文を記憶することが重要なのではなく、全体の意味の把握が重要だということを明確に意識させます。「テレビを見るように、頭の中でストーリーを映像化して見るとうまく意味が取れますよ」と説明するとわかりやすいようです。

読み聞かせる速度は学習者の様子を見ながら調整してください。このとき、学習者はスクリプトを見ません。

ストーリー①の読み聞かせが終わったら、学習者に皆の前で再生させます。ここで言う再生とは、教師が読み聞かせたストーリーを学習者がもう一度話してみるという活動のことです。

1回聞いただけでどのくらい聞き取れて再生できるか、挑戦させますが、このとき、「わからないことは飛ばしてもいいから、やってみよう」という態度で学習者を勇気づけてください。

すぐに皆の前で再生するのが難しい、または気後れするような場合は、まずペアになって交替で再生をしてみてから、皆の前でひとりで再生させてもいいでしょう。



再生する準備が整うのには個人差がありますから、それを尊重してください。2、3課あたりまで、しばらくは他の人の再生を聞くだけという学習者がいてもかまいません。無理強い禁物です。が、同時に、上手に後押しすることも大切です。学習者の様子をよく見て丁寧に対応してください。

1回聞いてすぐの再生のあと、必要ならもう1、2回ストーリーを聞かせて、文の構成や順序、助詞を意識した再生を求めます。このとき、注意深い学生なら、そして、学習者間の良好な関係ができていれば、他の人の再生をよく聞き、相互に訂正しあう姿が見られるでしょう。こうした活動に慣れていない学習者には「他の人の再生をよく聞いて、自分の聞いたものと同じかどうか、確かめて」と伝えます。ただし、ここでも最も重要なのはストーリーの意味です。語順や助詞に注意をさせすぎで、ストーリーの暗記を奨励することのないようにしてください。

このようにして、2～3回の読み聞かせで、元のストーリーとはほぼ同じものが再生できたら、ストーリー②を同じ手順で行い、最後のストーリーまで続けます。

この「ストーリーの再生」を学習者は案外気に入ってくれます。それは、今までばらばらに勉強したものが統合される、忘れていたことばや表現を思い出す、一定量の意味のある日本語を保持して話せるといった満足感を学習者が得られるからでしょう。でも、ストーリーの再生にあまり時間を取られすぎないようにご注意ください。

Ⅲ ストーリーを読みましょう

全てのストーリーの再生が終わったらこのページを見るように指示します。学習者はここで初めてスクリプトを目にします。前半では、まず、教師がその課の全てのストーリーを読みます。学習者は黙って、文字を目で追いながら意味の確認をします。次に教師と一緒に音読します。6課あたりから、学習者が音読の必要性を感じなくなったら、教師による読み聞かせと意味の確認だけでもかまいません。学習者の成長に合わせて読み方の指示を適宜変えてください。どんな風に読みたいか、学習者に意見を聞いてみるのもいい方法です。

Ⅳ ストーリーを聞いて書きましょう(ディクテーション)

教師がストーリーを読み、学習者はディクテーションをします。速度や読み聞かせる回数は学習者に合わせてください。授業時間に余裕がない場合は、自宅作業(宿題)にすることをお勧めします。

Ⅴ 話しましょう

ここからがこの教材の主たる活動です。十分に時間が取れるよう、時間配分にご注意ください。学習者はペアで設問に答えながら、自分自身のストーリーを準備します。このとき、Ⅱで聞いたストーリーのパターンを思い出して、それを使って話をすると、わかりやすく話せることを学習者に伝えます。後半の課になるとパターンに頼らずに自分のストーリーを話せるようになります。このように、交替で自分のストーリーを話し、Q&Aをしながらストーリーを作り上げます。こうした学習形態に慣れていない学習者には、繰り返し、他の人の話をよく聞くこと、それを聞きながら質問も考えることを伝えます。また、学習者自身の経験や感情と結びつかない一般的なことや、ありきたりなストーリーで済まそうとする学習者には、自分自身のことを思い出して話すように働きかけてください。おもしろいことを話さないとQ&Aができない、Q&Aができないと話す練習がつまらないと伝えるといいでしょう。

Ⅵ あなたのストーリーを話しましょう。Q&Aもしましょう

Vで話した「あなたのストーリー」をみんなの前で話させます。ストーリーの再生と同様、大勢の前で話す準備が整うのには個人差があるので決して無理強いせず、しかし、上手に背中を押してください。

話し手には「聞き手に理解してもらえなこと」を、聞き手には「質問を考えながら聞くこと」を伝えてから、何人かの学習者が自分自身のストーリーを話します。そのあとで、Q&Aをして、お互いに楽しめます。

ここで最も大切なのは「相互に理解可能なコミュニケーションを図ること」です。聞き手への配慮に欠けた一方的な話し方や、わからないまま聞き続けるような態度が見られたら、その都度、活動を止めて、より良い方法を提示します。

これらの留意点については「じょうずにコミュニケーション」を参考にしてください。

Ⅶ あなたが話したストーリーを書きましょう

Ⅵで話したストーリーを書かせます。このとき、話したことをそのまま書くように指導します。辞書を使って新語を加えたり、再度話を膨らませようと無理をすると、せっかくの「聞き手に理解してもらえるストーリー」が壊れてしまいます。上手に話す、つまり、上手に他者とコミュニケー

ションをするためには、辞書に頼って無理やり訳語を当てはめたり、漢字を書き連ねて意志を伝えようとする手段はいったん脇におき、この活動で行っているように、学習者の「手持ちの日本語」を使って表現する方法が有効だということを伝えてください。

各自のストーリーは、皆の前で話し、Q&Aをすることで整理されているので、書くのにそう長い時間は必要ありません。5分程度でしょうか。できるだけ、自宅作業(宿題)にせずに、その場で書かせてください。教師は添削をし(話す段階で整理されていれば添削は少量のはず)、返却します。その際、学生に何回も読むように伝えます。

■ ことば

各課のストーリーのことばを、名詞、動詞、形容詞、副詞類、接続詞の順に提示しました。授業の前に教師はここを見て、学習者にとっての未習語がどれか、チェックしておきます。授業では、学習者にここを見せずにストーリーを聞かせます。多少わからないことばがあっても、全体の意味を推測して聞くように促します。

■ じょうずにコミュニケーション

初級段階の日本語の知識不足からくる不都合を少しでも軽減して、良いコミュニケーションをとるためのテクニックを、[じょうずにコミュニケーション]として随所に盛り込みました。本教材の活動の最中にこれらを使える場面が多々あると思いますので、提示された課で練習するだけでなく、コミュニケーション上の問題が起きた時にはその都度これらのテクニックを使うよう指導してください。

また、本教材以外の時間でも、日々、学習者同士や教師との間で何かを言いたくなる場面、例えば、知らない言葉を聞きたいとか、聞き取れなかったからもう一度言ってほしいといったような場面が必ず生じます。こんな時こそチャンスです。[じょうずにコミュニケーション]のテクニックを使って話してみるよう、学習者を勇気づけてください。

●その他の留意点

- ・ 各課のストーリーは、初級学習者が理解可能な語彙と表現で作られているため、日本語としてやや不自然なところもありますが、そのデメリットよりも、自分の知っている限られた言葉でもこれだけのことが言えると学習者に意識転換してもらおうメリットを重視しています。
- ・ この教材では学習者の経験や感情に結びつくトピックを多く取り上げているので、緩やかに自己開示が進み、教師と学習者、学習者同士の良好な関係が作りやすくなります。ただし、トピックによっては話しにくい場合があるかもしれないので、話したいことを話す自由と同様に、話したくないことは話さない自由も尊重したいものです。
- ・ この教材では予習は不要、むしろ、禁止です。スクリプトも何も見ずに聞いて、どのくらい聞き取れるか、再生できるかを楽しむように指導してください。代わりに復習は大歓迎です。CDを聞く、声を出して読む、添削された自分の作文を何度も読むことを奨励してください。

●時間配分のヒント

クラス授業の場合、1つの課を90分で行うことを想定しています。人数等の条件によって時間配分は異なりますが、概ね次のような配分がいいようです。時間が足りない場合、IVの書きま

しょう(ディクテーション)は宿題にします。V, VIの話す活動に十分時間が取れるように時間配分してください。

I 聞く前に	II 再生しましょう	III 読みましょう	IV 書きましょう (ディクテーション)	V 話しましょう	VI あなたの ストーリー Q & A	VII 書きましょう
5分	25分	10分	10分	15分	20分	5分

クラスでの理想的な学習者数は10人程度ですが、2～3人でも、逆に30人以上の多人数でも可能です。少なればひとりひとりに時間を割くことができます。多い場合はひとりずつ全員に再生や話をさせることは無理ですが、ペアワークを多用しながら話す練習をさせることができます。

■ 資料 初回の授業 配布資料例

一番最初の授業で学習者に渡して、授業の進め方と評価を説明します。評価の点数配分は一例なので、それぞれの現場に合わせてください。

(例) わたしのにほんご —はなすれんしゅう—

- 時間 : 毎週水ようび 13:00 ~ 14:30
- 先生 : ○○先生
- 目的 (Goal / 目的 / 목적)
日本語をたくさん聞きます。たくさん話します。Q & Aをします。
- 勉強の仕方 (How to study / 学习方法 / 공부법)
 - みなさんの頭の中のテレビ (TV in your head / 在脑海中过电影 / 머릿속의 TV) をスイッチオンします。
 - 先生がストーリー (story / 小故事 / 이야기) を話します。
 - よく聞きます。頭の中のテレビを見ます。
 - テレビをリプレイします。もういちど、ストーリーを話します。

The most important thing is MEANING. For example, / 最重要的是意思。例如 / 가장 중요한 것은 의미입니다. 예를 들면,

図書館で新聞を読みます → 図書館へ行きます。新聞を読みます。 OKです。
→ 図書館へ行きます。本を読みます。 OKじゃありません。

 - ストーリーを読みます。
 - ディクテーションをします。
 - 「私のストーリー」を話します。Q & Aをします。
 - 「私のストーリー」を書きます。
- 評価 (Evaluation Criteria / 评分 / 평가)

ストーリーの再生 (Story Retelling / 复述小故事 / 이야기 재쟁)	5点
「私のストーリー」 (“My Own” Story Telling / 我的小故事 / 나의 이야기)	5点
Q & A (Q & A / 问答练习 / 묻고 답하기)	5点
書く (Story Writing / 写 / 쓰기)	5点

著作権保護コンテンツ

4

楽 たのしかったです

That was fun / 我很开心。 / 즐거웠습니다

I

ストーリーを聞く前に Before listening to the stories / 听小故事前 / 이야기를 듣기 전에

先生と／ペアで、Q&A をしましょう。

- ① しゅうまつ、なにをしましたか。たのしかったですか。
- ② どこですか。わかりますか。

北海道
ほっかいどう

東京
とうきょう

沖縄
おきなわ

日光
にっこう



II



ストーリーを聞いて再生しましょう Listen and then retell the stories you have just heard / 听完小故事后进行复述 / 이야기를 듣고 재생애 봅시다

track
19-22

ストーリーは4つです。次のページは見ないでください。

There are four stories. Please do not look at the next page yet. / 小故事由4个部分组成。请先不要看下一页。 / 이야기는 네 개 입니다. 다음 페이지는 보지 마세요.

①のイラストとことばを見てから、ストーリーを聞きましょう



Look at the words/phrases with the illustrations of ① and then listen to the story. / 先看一下①中的插图和词汇，之后再听小故事。 / ①의 일러스트와 단어를 보면서 이야기를 들어봅시다.

ペアで再生しましょう



Try to retell the story to your partner. / 试着两个人一起复述小故事。 / 열 사람과 재생애 봅시다.

みんなの前で再生してみましょう



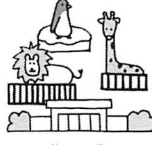
Now let's retell the story to your class. / 试着在同学面前进行复述。 / 다른 사람들 앞에서 재생애 봅시다.

1



ボート

2



どうぶつ

3



スキー おてら おんせん たのしみです

4



まんが



声を出して読みましょう。先生／CDといっしょに読みましょう。

Read the stories aloud. Read along with your teacher or with the CD. / 请出声朗读。跟着老师或CD一起朗读。/ 소리 내어 읽어봅시다. 선생님이나 CD와 함께 읽어봅시다.

1

わたしはきのう、公園に行きました。友達と一緒にいきました。
 公園で散歩しました。それから、ボートにのりました。
 とてもたのしかったです。

2

わたしはきのう、動物園に行きました。
 友達と一緒にいきました。
 動物園で、いろいろな動物を見ました。
 それから、友達と一緒にご飯を食べました。
 とてもたのしかったです。

3

わたしはあした、友達と一緒に日光に行きます。
 日光でスキーをします。お寺に行きます。
 それから、温泉に入ります。
 とてもたのしみです。

4

わたしは毎週土曜日漫画を読みます。
 朝から晩まで、漫画を読みます。
 月曜日から金曜日まで、わたしはとても忙しいです。
 漫画を読みます。
 わたしは、土曜日がとてもたのしみです。

IV



ストーリーを聞いて書きましょう

Listen and complete the stories / 听小故事后完成以下句子 /
이야기를 듣고 써 봅시다track
19-22

1

わたしはきのう、公園へ行きました。友達と_____行きました。
公園で_____しました。それから、_____にのりました。
とてもたのしかったです。

2

わたしはきのう、動物園へ行きました。
_____に行きました。
動物園で、いろいろな_____を見ました。
それから、友達と一緒にごはんを食べました。
とても_____です。

3

わたしは明日、友達と一緒に日光に行きます。
日光で_____します。_____に行きます。
それから、_____には入ります。
とてもたのしみです。

4

わたしはまいしゅうどようびにまんがを_____。
_____、まんがをよみます。
げつようびから金曜日まで、わたしはとても_____。
まんがを_____。
わたしは、土曜日がとても_____です。

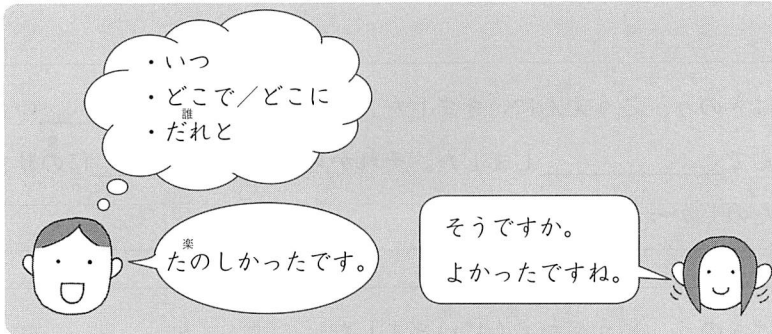
V



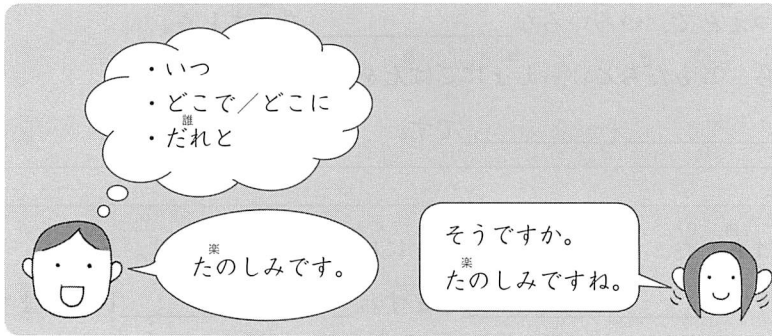
話しましよ
はな

Discuss and share what you think / 进行会话练习 / 말해 봅시다

1. ペアではなしましよ。「たのしかった」ストーリーをはなしましよ。



2. ペアではなしましよ。「たのしみな」ストーリーをはなしましよ。



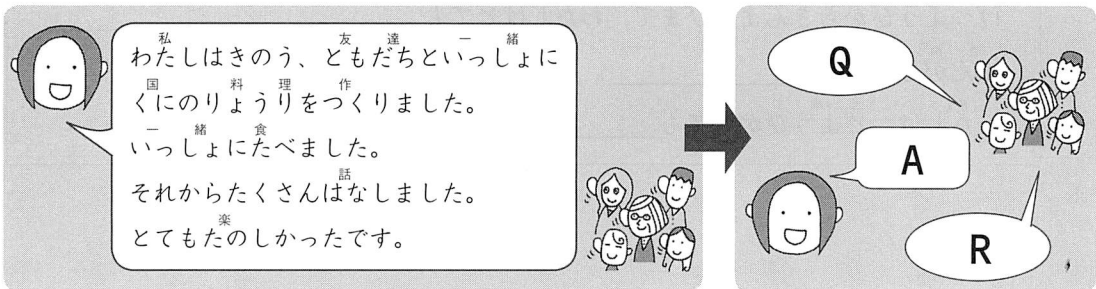
VI



あなたのストーリーを話しましよ
Q&A もしましよ
はな

Share your own story in class and exchange Q&A with your classmates / 向大家讲述自己的小故事、并与同学进行问答练习 / 여러분의 이야기를 말해 보고 옆 사람과 묻고 답해 봅시다

あなたの「たのしかった」「たのしみな」ストーリーをはなしましよ。





じょうずにコミュニケーション! 5

話す人の仕事・聞く人の仕事
はな ひと しごと き ひと しごと

Speaker's task & Listener's task /
说话人的工作・听者的工作 /
말하는 사람의 일, 듣는 사람의 일

話す人の仕事
はなすひとのしごと

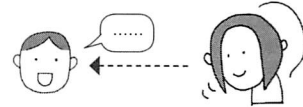
- ① きくひとを見ます。
- ② 「わかりますか、わかりませんか」
と*かんがえます。



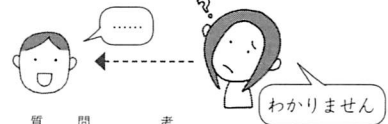
*かんがえます to think / 思考 / 생각합니다 *うなずきます to nod / 首肯 / 고개를 끄덕입니다
*しつもん question / 提问 / 질문

聞く人の仕事
きくひとのしごと

- ① はなすひとを見ます。よくききます。
わかります→*うなずきます。



- わかりません→
「わからないかお」をします。
「わかりません」といいます。



- ② *しつもんをかんがえます。

VII



あなたが話したストーリーを書きましょう

Write down your story which you just told /
把自己讲过的小故事写下来 /
여러분이 말한 이야기를 써 봅시다

あなたの「たのしかった」 / 「たのしみな」ストーリーをかきましょう。

たのしかったです。 / たのしみです。

<input type="checkbox"/> 公園 (こうえん)	park	公园	공원
<input type="checkbox"/> 動物園 (どうぶつえん)	zoo	动物园	동물원
<input type="checkbox"/> 日光 (にっこう)	Nikko	日光	닛코
<input type="checkbox"/> お寺 (おてら)	temple	寺院	절
<input type="checkbox"/> 温泉 (おんせん)	hot spring	温泉	온천
<input type="checkbox"/> 友達 (ともだち)	friend	朋友	친구
<input type="checkbox"/> 動物 (どうぶつ)	animal	动物	동물
<input type="checkbox"/> ご飯 (ごはん)	meal	饭	밥
<input type="checkbox"/> ボート	boat	小船	보트
<input type="checkbox"/> 漫画 (まんが)	comic book	漫画	만화책
<input type="checkbox"/> 散歩します (さんぽします)	(leisure) walk	散步	산책합니다
<input type="checkbox"/> 乗ります (のります)	to ride	坐	타입니다
<input type="checkbox"/> 見ます (みます)	to see, to look	看	봅니다
<input type="checkbox"/> スキーをします	to ski	滑雪	스키를 타입니다
<input type="checkbox"/> 入ります (はいります)	to enter	进入	들어갑니다
<input type="checkbox"/> 読みます (よみます)	to read	读	읽습니다
<input type="checkbox"/> 楽しい (たのしい)	fun	开心	즐겁습니다
<input type="checkbox"/> 忙しい (いそがしい)	busy	忙	바쁩니다
<input type="checkbox"/> 楽しみ (たのしみ)	something one looks forward to	期盼	기대하다
<input type="checkbox"/> いろいろ	various	各种	여러가지
<input type="checkbox"/> 一緒に (いっしょに)	together	一起	같이
<input type="checkbox"/> 朝から晩まで (あさからばんまで)	from morning until night	从早到晚	아침부터 밤까지
<input type="checkbox"/> 毎週 (まいしゅう)	every week	每周	매주

著者紹介

杉浦千里（すぎうら ちさと）

筑波大学留学生センター非常勤講師

修士（学術）

江東区中国帰国者日本語学級会講師を経て、国際交流基金日本語専門家として在韓日本大使館公報文化院、ブルガリア・ソフィア大学、カザフスタン日本センターでの日本語教育に従事。2005年から現職。

小野寺志津（おのでら しず）

筑波大学留学生センター非常勤講師

修士（日語・日文学）

韓国ソウル市・高麗大学日本語講師、同じく忠清南道天安市・天安外国語大学日本語学科招聘講師を経て、2005年から現職。

ボイクマン総子（ぼいくまん ふさこ）

東京大学教養学部特任准教授

博士（言語・文化学）

著書に『聞いて覚える話し方 日本語生中継』〈シリーズ〉（くろしお出版・共著）、『ストーリーで覚える漢字』〈シリーズ〉（くろしお出版・共著）、『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』（The Japan Times・共著）がある。

執筆担当（本書は杉浦のアイデアを基に、以下の担当で執筆を行った。）

L1, 2, 3, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 17, 18 : 杉浦

L4, 5, 11 : 小野寺

L6, 7, 16 : ボイクマン

わたしのにほんご

しょきゅう はな きも かんが
初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え

2011年3月25日 第1刷発行

- [著者] すぎうらちさと おのでらしず ふさこ
杉浦千里, 小野寺志津, ボイクマン総子
- [発行] くろしお出版
〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10
Tel. 03-5684-3389 Fax. 03-5684-4762
URL: <http://www.9640.jp> e-mail: kurosio@9640.jp
- [印刷] シナノ書籍印刷
- [翻訳者] 小室リー郁子, Peter Lee (英語)
張志剛 (中国語)
いじょんみ (韓国語)
- [装丁] 折原カズヒロ
- [イラスト] 村山宇希
- [音声録音・編集] 狩生健志
- [声優] 所広之
伊藤亜沙美

© 2011 Chisato Sugiura, Shizu Onodera, Fusako Beuckmann Printed in Japan
ISBN 978-4-87424-516-3 C0081

●乱丁・落丁はおとりかえいたします。本書の無断転載・複製を禁じます。

著作権保護コンテンツ